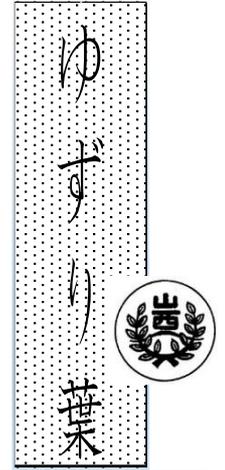


昭和 52 年(1977) 3 月撮影



二宮町立山西小学校
 学校便り「ゆずり葉」
 第 109 号
 山西小学校 72-3777

開校から45周年

四十五周年にあたり、学校のことをもう少し詳しく調べてみました。

左の写真は、四十四年前に撮影されたものです。現在は住宅が並び、樹木が覆い茂っているため、校舎は殆ど見えません。とても貴重な写真です。

本校の卒業生である現保護者によると、正門の近くに川が流れていて、沢蟹がいたのをよく覚えていたとのこと。卒業生の皆様、久しぶりに卒業アルバムを開いてみてはいかがでしょうか。

学校沿革誌によると、開校の理由は次に記されていることから読み取れます。

「二宮町は最近急速な発展を見、人口増も著しく児童生徒数の増加にともなう第三小学校の建設は町の大きな課題であったが、関係者の努力により：(途中省略)、山西小学校の誕生を見た。」

開校当時の児童数は九一名で二十六学級ありました。最も児童数が多かったのは昭和五十七年の一一〇二名で、三十学級という記録が残っています。敷地内には、二宮町ロータリークラブより寄贈

された校歌碑・庭園や二宮野鳥の会より寄贈された鳥の彫刻など、多くの方の支えによって現在の山西小学校がつくられました。

時代の流れとともに歩んでいます

開校当時から、運動会や遠足、日光修学旅行が行われていました。そして、開校から二十年が経過した平成七年の阪神淡路大震災をきっかけに、校舎の耐震補強や大規模改修が実施されました。十四年前には山西学童が開設され、デジタルテレビや扇風機がこの頃に設置されました。現在は、エアコンに切り替わり、児童一人一人にコンピュータ(タブレット)

トやクロームブック)が与えられました。コンピュータは文房具の一つとしての役割をもち、授業の形態も変化してきました。教師が黒板を背にして、前を向く子どもたちに対して一斉に教え込む形は一五〇年ほど前から始まり、これが日本の授業スタイルとして定着しました。それが今では、自分で調べたり、友だちと話し合ったりしてお互いを高め合うスタイルが当たり前になりました。ここで身につく資質・能力が、これからの時代に生きるために欠かせないものとなります。

校歌と校章が表す子どもへの愛

山西小学校 校歌
 作詞 遠藤たか子
 作曲 原田良一



海原青き 相模の浜の
 寄せくる波に こころみがきて
 のびゆく我等の 集えるところ
 ひかりあふれる 山西小学校
 朝日うららか 吾妻の山の
 深きみどりに 学びの業を
 はげめる我等の 集えるところ
 のぞみあふれる 山西小学校
 平和の光の 満つる庭に
 深き青さに きたえるからだ
 手に手をつなぎ 集えるところ
 永久に栄えん 山西小学校

二宮町は、神奈川県南西部、東京から 70 km のところに位置し、東は大磯、北は丹沢連峰を背に中井町、西は押切川をはさんで小田原市、南は白砂青松と紺青の海原「相模湾」に面している。動植物の大切なすみかとして守られている吾妻山のふもとに位置する本校は四季折々の自然の営みを感じることができる学舎であることを誇りとしている。校章は、地区をあらわす 9 枚の葉(片方)と中央に吾妻山、緑に囲まれた中に山西小学校が描かれていて、児童、保護者はもとより地域の方々にも愛されている。

○ 修学旅行(日光)
 ～おかげさまで～

十一月四日(木)、延期していた修学旅行を実施することができました。今回は、バスでの旅行に切り換えて、二宮町民グラウンドの駐車場をお借りして、出発しました。



華厳の滝 90mの高さから中禅寺湖の水が一気に！

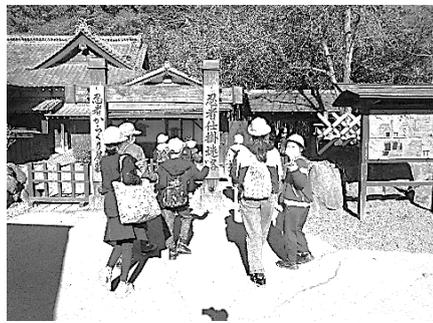


三本松にて 男体山がよく見えました

開校当時から行っている日光には、六年生の学習内容に関わっているものが多いのです。私(校長)は、山西小学校開校の年に、六年生として日光に行きました。今も変わらず華厳の滝や東照宮に、守り続けてきた人たちの想いを感ぜずにはいられません。これからも子どもたちが良い思い出づくりにいくことでしよう。



日光東照宮陽明門 鮮やかな装飾の色に感動



日光江戸村 大人気だった忍者からくり屋敷

子どもたちの感想に、ある傾向が見られました。それは、感謝の気持ちです。今までの子どもたちの感想の多くは、景色に対する驚きや、部屋で過ごしたことへの楽しさでしたが、今回の感想には、多くの方たちのおかげで修学旅行に行けたことがたくさん書いてありました。お蔭様に気づくことができたことはとても素晴らしいことです。

○ 学習参観・ドレミファコンサート

十月三十日(土)、子どもたちの学習の様子を観ていただくことができました。「ICT機器を活用した学習」と「主体的・対話的で深い学びの学習」です。分かる楽しさやできる喜びは更なる学ぶ意欲

を生みます。ドレミファコンサートは、学年ごとに行われました。



歌えること、聴いていただけることに感謝です

きれいな音(声)、明るく楽しい音(声)は歌っている本人も聴いている人たちも心地よいものです。来年も、感謝の気持ちを忘れずに行いたいと考えています。

○ 児童みぎすく(CS)

十月に行われた放課後子ども教室の様子です。体育館を広く使って段ボールを自由に扱い、発想豊かにのびのびと工作を楽しみました。



その他にも、昔遊びや竈(かまど)での焼き芋を楽しみました。現在の登録者数は、100人を超えました。

子どもたちにとって有意義な時間になっています。スタッフの方、ありがとうございます。